

やちまた21

小澤 定明
加藤 弘
林 政男

IT社会の到来、教育に関わる 世界全体が急激に変化

やちまた21 加藤 弘

代
表
質
問

教育問題

問 教育をめぐる現状は、関係者の地道な努力により機会均等の理念を実現し、教育水準を高め、その時々時代の要請に対応しつつ、人材育成を通じて社会発展の原動力となってきた。しかし、一方で教育の現状に目を向けると教育に対する信頼が揺らぎ幾つもの大きな課題に直面している状況が見受けられ、家庭における児童虐待等、学校におけるいじめ、不登校、校内暴力、またこれまでは考えられなかった青少年による重大事件など様々な問題が発生しています。

一方、IT社会の到来、これによる経済市場の拡大など教育に関わる世界全体が急激に変化している現状において教育システムやこれに携わる関係者が充分対応していくことが今ここに求められています。

教育長 毎年人権教育研修会を行って教員の意識を高めるようにしており、校内研修でも人権教育を取り上げ教職員の人権感覚を磨い

朝のボランティア活動



ているところです。また、各学校では、児童生徒の主体的な活動や、保護者・地域住民との関係による取り組みを通して児童・生徒の「生きる力や自分と他者との命を大切にすることを育むとともに、いじめや暴力行為等の人権侵害は許されない行為である」という認識を高めることを目的として社会奉仕体験活動・自然体験活動・就労生産体験などの活動に取り組んでいます。

情報リテラシーの向上

問 情報リテラシーの向上について伺う。

教育長 情報リテラシーとは情報の収集と理解、そしてそれらを適用して新しい概念や理解を生み出すことと捉えています。情報リテラシーはこれまでの文字に代表される印刷物以外のメディアについても対象となり、文字の読み書き以外にも視覚、聴覚、コンピュータに関する能力も含まれると言われており、これを向上するために、各小・中学校に40台の児童・生徒用のコンピュータを配置し、計画的に新しいものに取り替えています。今後、校内LANの整備により、さらなる情報リテラシーの向上を図ってまいります。

問 個性・能力に応じた指導方法と改善について伺う。

市税総括

教育長 児童・生徒の個性や能力を伸ばす教育は、教師の児童・生徒理解が極めて重要です。そして、児童・生徒理解を元に、毎日の授業を通して、さらに学校教育全体の学習や活動の中で個性や能力を伸ばす教育活動を実践しています。特に学習では、基礎学力を定着させるために数学や英語教室の授業で、少人数指導をできるだけ取り入れるようにしています。

財政問題

問 交付税が大幅に圧縮される中、三位一体による税源移譲は住民から直接自力で集める「徴税力」の向上を市町村に負っており、今まで以上に徴税に力を注がなければならぬ状況です。この現状をどのように打破して「徴税力」をつけていくかが、これからの行政に課せられた大きな課題ではないか。

市税の徴収率・滞納額の状況を伺う。

市長 平成18年度における市税の徴収率については、現年度分が94・4%、滞納繰越分が11・9%であり、

市税総括では、76・7%でした。平成17年度と比較すると現年度分が0・3ポイント増加したことに対し、滞納繰越分は1・0ポイントの減、市税総括については同率でした。今後は、滞納処分の実施など、徴収対策の一層の強化に引き続き取り組むとともに回収困難な事案の適切な処理についても、積極的に取り組みたいと考えています。

問 低額滞納者の徴収はどのように行われているのか。

市長 低額滞納者を軽視するものではなく、高額滞納者同様、適切に対応するよう心がけており、実態調査や納税交渉等を地道に行う中で滞納者との直接対話を心がけ、滞納者の生活状況に応じた分割納付等にも応じています。

税金の公平性を念頭に置きつつ厳正かつ滞納者それぞれの状況に応じた対応により、滞納税額の縮減に努めたいと考えています。また、年内にはインターネットを利用したネット公売を活用し、本市が差し押さえられている不動産の公売を実施する予定です。